



IT ダイバーシティフォーラム

安信 千津子¹ 青山 幹雄²

¹ (株)日立コンサルティング ² 南山大学

ダイバーシティとは

ダイバーシティ (Diversity: 多様性) とは、多様な人材を活かすことである。多様なニーズや激しい変化に効果的に対応できるよう、個々人の特徴や考え方の違いを活かして、組織の力を高めていく活動が、ダイバーシティ・マネジメントである。昨今の少子高齢化や価値観の多様化に伴い、日本でも経営戦略の1つとして、企業の取り組みが始まっている。

実は、IT 技術者・研究者の中で「女性」は小数派の1つである。情報処理学会の会員に女性が占める割合は、学生会員で約 11%、正会員で約 5% である。そもそも理工系の女子学生が少ない。さらに、卒業して活動を継続する女性の割合は、薬剤師や建築士のような国家資格があるわけではなく、他の理工系分野と比べて高いとは言えない^{☆1}。

今後、より広い分野で IT への依存度がより高くなる一方、少子高齢化や 2007 年問題に象徴される人材不足を克服するには、女性の活躍が不可欠である。本学会では、女性 IT 技術者・研究者のコミュニティ活動を支援するために、IT ダイバーシティフォーラムを立ち上げた。その活動として、2007 年 1 月の「ソフトウェアジャパン: 社会を変えるイノベーション 2007」での講演、2006 年 9 月の「IT 分野で活躍する女性技術者・研究者と語ろう」講演・パネル討論会の様子を紹介する。

「日本社会のイノベーションに向けて —女性技術者の活躍支援—」

國井秀子氏は、(株)リコー常務執行役員 ソフトウェア

☆1 経済産業省の「平成 17 年度特定サービス産業実態調査」では、「情報サービス業」に従事する女性の比率は 22.2% (約 12.7 千人) である。一方、「平成 17 年度男女参画白書」によると大学の学部学生・院生に占める女性の比率は、工学系では学部が 10.6%、大学院修士課程 10.0%、大学院博士課程 11.4% で、いずれも、他学部と比べて著しく低い。

ア研究開発本部本部長であり、IT 分野で活躍する女性の代表の 1 人である。社会のイノベーションのためには、

- 固定観念にとらわれない新たな価値の創造
- 多様な人材が活躍できる企業風土作り
- 女性をもっと意思決定の場にいること

が重要であり、女性の参画は、日本企業が真にグローバル企業として世界に貢献できるか否かの試金石であることを、力強く訴えられた(図-1)。

女性の活躍に向けてのイノベーションシナリオ

まず、日本ではまだまだ女性が社会で活躍できていないこと、女性活用の取り組みと経営パフォーマンスに相関があることを、客観的な数値で説明された。たとえば、日本は国連のジェンダー権限尺度 (GEM) の「女性の社会における意思決定への参画度合い」で 42 位、世界経済フォーラムの「男女格差指数」では 79 位である。

大学としては米国のカーネギーメロン大学 (CMU) でコンピュータサイエンス専攻の女子学生を増やすさまざまな努力を行い、5 年間で 7% から 40% まで上がったが、少し手を抜くと 25% まで下がったこと、などである。

組織としての女性活用の取り組みについて、トップの

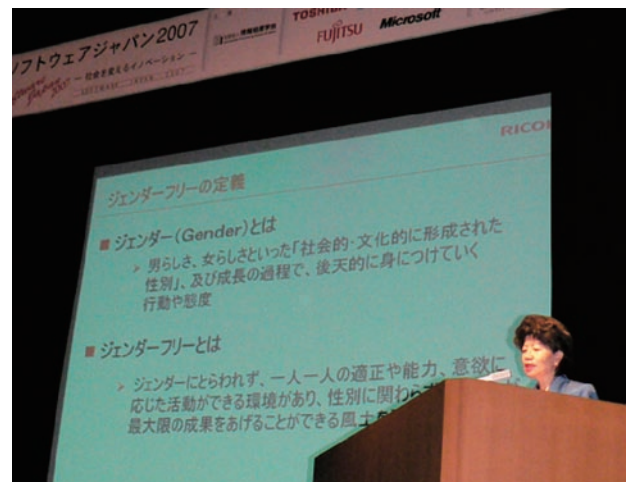


図-1 ソフトウェアジャパンで講演する國井氏



図-2 講演する Deborah Cooper 氏^{☆2}

強いメッセージの下、組織風土が変わり女性活躍も加速されるという、スパイラルアップを、次の3つのフェーズで紹介された。

- (1) 突破口として、社外スカウトまたは社内選定で、活躍する女性の事例を作る。
- (2) 女性の活躍を広げて高めるために、女性の貢献をアピールし、業務の経験や教育の機会を与える。
- (3) 持続的活動のために、指標を作り、育成プランの作成等マネージャを教育する。

このプロセスを通して、自信を持っていない環境にある能力のある女性が励まされて自信を持つようになり、その活躍が後輩への刺激となり、女性にとってのロールモデルが出現し、マネージャにとっては育て方の理解へとつながっていった。



図-3 会場風景

^{☆2} IT ダイバーシティフォーラム写真提供：山田 昭彦(東京電機大学)。

社外ネットワーキングの奨め

組織での取り組みの事例を紹介され、「ルールを変えてでもこの人を活用しよう、と思ってもらえる人になる」、「つまらない仕事のために子供を保育園に預けてまで働きたくない」など、や女性の生の声には、大いに頷かされた。

國井氏は社内の仕事だけでなく、日本女性技術者フォーラム (JWTF) の創立メンバでもあり、IEEE 日本カウンスル WIE (Women in Engineering) の副会長を務められるなど、社外ネットワーキング活動にも積極的に取り組まれている⁴⁾。後輩の女性に対するボランティア精神は、後に続く女性たちが引き継いでいくべきであると感じた。

「IT 分野で活躍する女性技術者・研究者と語ろう」 講演・パネル討論会

2006年9月に本学会が主催した情報科学技術フォーラム (FIT2006) での招待講演のために来日された IEEE CS (Computer Society) 会長の Deborah Cooper 氏を迎えて開催した。企業で活躍している女性を中心に40名程度が参加し、熱い議論が交わされた¹⁾。

まず、Cooper 氏が、IEEE CS のビジョンや戦略について講演された。IEEE CS は女性だけでなく言語や国家等のダイバーシティを事業の機会ととらえ、重要なテーマとしていることを強調された。産業界と協力して IT ダイバーシティサミットを開催する考えもあるそうだ。

講演の後、パネル討論会にもパネラとして参加して積極的に発言された。常にもう一頑張りして質の高い仕事を目指してきたこと、継続して活動するには情熱が一番大事であることなど、基本は変わらないことが印象に残った。

パネル討論会

中谷多哉子氏 (筑波大学) の司会のもと、IT 分野で活躍するパネラから力強い発言が相次いだ。

山本里枝子氏 (富士通研) は「仕事も家庭も継続が重要である。続けていくことで見えてくるものが必ずある。やらずに後悔するよりは、どんな機会も必ず血肉になると信じ、前向きに取り組んでいただきたい」と主張。

澤谷由里子氏 (日本 IBM) は「異動をマイナスに考えるのではなく、どのような仕事にも前向きに取り組むチャレンジすること。またこのような環境の中



安信千津子(日立) 中谷多哉子(筑波大学) 来住伸子(津田塾大学) 澤谷由里子(日本 IBM) 山本里枝子(富士通研究所)

図-4 パネルディスカッションで語る司会、パネラ

で技術力を深めるために、社内外の技術コミュニティと継続した関係を持ちネットワークを広げることが重要。

来住伸子氏(津田塾大)は女子学生に教える立場から「キャリアプランを具体的に考えることを勧める。すでにキャリアのある人には自分自身やIT分野の仕事について語って、IT分野の仕事のイメージアップをしてほしい。日本の女子学生はIT分野の仕事にあまり良いイメージを持っていない」などの意見があった

参加者から「大学院で勉強を始めた。結婚もしたい。子供も育てたい。もちろん仕事も続けたい。すべてをかなえることは無理なのだろうか」という質問があった。パネリストたちは異口同音に、「すべての夢を叶えるために挑戦することが大事」との回答であった。元気が乗り移ってくる場になったのではないかと思う。

IT 業界におけるダイバーシティの取り組み

國井氏の講演で紹介されたように、IT 業界では、各社でダイバーシティへの組織的取り組みが広がっている。たとえば、1998年に女性社員の能力活用を支援する社長諮問機関 Women's Council を設立して、先駆的に取り組んできた日本 IBM では、内永ゆか子氏をはじめ経営層でも女性が活躍をしている^{2), 3)}。また、2006年のチューリング賞を、女性で初めて、Frances E. Allen 氏(IBM Fellow Emerita)が受賞した。

大学などの研究教育機関でも女性、外国人研究者の活躍を組織的に支援する必要があるが、活動は始まったばかりである。

IT ダイバーシティフォーラムへの誘い

IT ダイバーシティフォーラムの活動は、まだ緒に着いたばかりである。今後、学会としてどのような取り組みが会員や社会に貢献できるか、可能であるかを模索して

いきたい。講演会以外にも、全国大会に託児所を設けている学会や、学会誌に女性が執筆する特集を出している学会もある。

IT ダイバーシティフォーラムでは、今後、産業界、大学とも連携して、IT ダイバーシティの推進を図りたいと考えている。社会をイノベートする多様化に向けて、問題意識を共有し解決策の議論が広がるよう、参画と協力をお願いしたい。

参考文献

- 1) 中西佳世子：女性技術者たちの挑戦：仕事も、子育ても。すべてを手に入れる方法がある。 <http://business.nikkeibp.co.jp/article/skillup/20061010/111362/>
- 2) 内永ゆか子：部下を好きになってください、勁草書房(2007)。
- 3) 日本 IBM, ワークフォースダイバーシティー, <http://www-06.ibm.com/jp/ibm/responsibility/people/diversity/>
- 4) 國井秀子：ジェンダー・イクオリティと情報通信技術分野, CIAJ JOURNAL, 情報通信ネットワーク産業協会, 2006年6月号, pp.18-19.

(平成 19 年 3 月 29 日受付)

安信千津子 (正会員)

c.yasunobu@hitachiconsulting.co.jp

本会国際担当理事。日立製作所システム開発研究所、日立総合計画研究所を経て、日立コンサルティングへ出向中。工学博士。新しいアプリケーションシステムの研究開発、海外調査研究や提言活動、ソリューション開発やコンサルティング活動を通して、上流やアプリケーションから IT に携わる。その間子供たちも育つ。

青山 幹雄 (正会員)

mikio.aoyama@nifty.com

要求工学、ソフトウェアアーキテクチャ技術を Web サービスや組み込みソフトウェアの開発で実践するためにソフトウェア工学の研究・開発と教育・人材育成に従事。IEEE-CS TCSE Executive Committee Member. <http://www.nise.org/>